

はじめに

今回、私は日本医科大学東南アジア医学研究会（以下アジ研）の一員として 2024 年 8 月 12 日～2024 年 8 月 25 日の 14 日間、医学調査・国際交流をするためにタイに滞在しました。参加しようと思った理由は、将来なんらかの形で東南アジアの医療に貢献したいと思っているからです。私は以前 3 年ほどフィリピンに住んでいたことがあり、その際に当時小学生だった私でもはっきりとわかるくらいの日本との圧倒的な医療における技術格差や意識格差を目の当たりにしました。将来はこの問題の対策に関わりたいがどうしてこのような問題が起こってしまうかわかりませんでした。実際に目で見て肌で感じることでこの問題が生じてしまう理由が少しでも分かればいいなと思い参加させていただきました。実際に自分の目で見ると、写真で見るのとは全く違い、色々感じるものがありました。その詳細を本活動報告書でまとめさせていただこうと思います。1 年生の学校での授業は教養科目が多く、医学部っぽい授業が少なかったのが今回の派遣はとても楽しく、いい経験になりました。

報告の前に、宮下先生、武井先生をはじめとする引率していただいた先生方、Red Cross Hospital、チェンマイ大学病院、タマサート大学病院、Buddhasothron Medical Education Center、Thai Traditional Medicine Clinic の先生方、チェンマイ大学、タマサート大学の生徒、教授、職員の皆さま、その他今回の派遣に関わっていただいた数多くの方々へ深く感謝を申し上げます。

活動報告

●8/12

アジ研初日。羽田空港からスワンナプーム国際空港を経由してチェンマイ空港に到着。着いた時は夜だったので、学生寮近くの現地のレストランで夕食を食べました。



●8/13

午前中にチェンマイ大学の医学部長にお会いし、チェンマイ大学の歴史や目標について教えていただいた。

理をいただきました。



●8/15



午前中は引き続き Red Cross Station で肝臓がん超音波スクリーニング

検査の見学・補助をさせていただきました。前日に加え、腎臓、肝臓、脾臓、膵臓の認識や主要な血管について教えていただき、またひとつ

成長できました。

午後はマンモグラフィー検査についての講義をしていただき、実際の

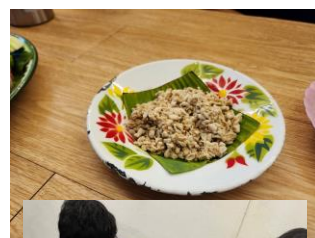
器具も見せていただきました。

夕方にはチェンマイ大学の学生達に大きな湖に連れて行ってもらい、そこでお話をしながら散歩しました。英語が苦手だったので少し苦労しましたが、意外と通じてとても楽しかったです。夕食は北部のタイ料理に連れて行ってもらいました。北部のタイ料理は日本人がイメージする一般的なタイ料理とは異なり、珍しい料理ばかりでした。蟻のたまごや豚の脳などを食べました。

●8/16

この日は Red Cross Station での肝臓がん超音波スクリーニング検査の最終日でした。初日と比べるとかなり見えるようになっていて成長が実感できました。しかし、難しいのは画像を読み取ることだけではありませんでした。実際に自分で超音波検査をしたのですが、角度や位置の調整がいかに難しいかがわかり、まだまだ道のりは長いなと感じました。午後はマンモグラフィー検査の実際の画像を見て診断する体験をしました。正常と異常の区別は本当に難しかったです。教えてもらっても正常の場合と何が違うのかがわからなかったり、かなり小さい癌も見逃してはいけなかったりととても大変でした。

夜にチェンマイ大学の方達に向けた Thank you party を行いました。僕たちは出し物としてヘビーローテーションと恋するフォーチュンクッキーを踊りました。チェンマイ大学の学生達もタイの踊りや歌を披露してくれてとても楽しい会になりました。チェンマイでの生活も



終わりに近づいていたので、チェンマイ大学の学生との最高の思い出をまたひとつ作ることができました。

●8/17

午前中は自由時間だったのでタイのお寺に行ってきました。日本のお寺とは違い、外観がとても煌びやかで迫力がありました。タイのおみくじは筒の中に入った大量の棒を一つだけ落とし、その棒に書かれている番号の棚に入っている紙をもらうという方式でした。おみくじを引いたところかなり容赦のない戒めをいただきました。友達のおみくじも見た感じ、日本のように優しく抱きしめてくれるようなおみくじではなかったです。

午後は学生達に案内してもらい、チェンマイの歴史を学ぶことができる博物館やまた別のお寺を巡ったりしました。日本は大昔から王朝が変化していないので日本史は一本の直線で表すことができますが、東南アジアでは様々な王朝が成立・滅亡し、国境も複雑に変化したので日本史を紹介する博物館とは全く異なりました。様々な王朝の説明が書いてあり、成立したり滅亡したり合併したりとあまり日本史の博物館ではないようなことがたくさん書かれておりとても新鮮でした。

●8/18

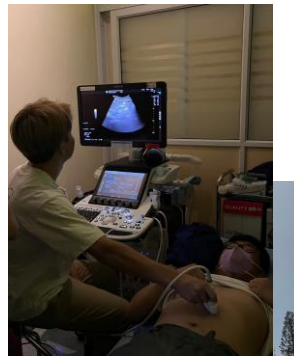
この日でチェンマイとはお別れ。朝9時に荷物をまとめて宿をで得ようとしたら、チェンマイ大学の学生がお見送りに来てくれました。1週間ずっと一緒にいたので別れる

のは悲しかったですが、今度日本に来るとい人もいたのでまたその時に会う約束をしました。

空港に到着しいざバンコクへ。到着は1時間ほど遅れてしまいましたが無事全員到着しました。

空

港の外ではタマサート大学の学生が迎えに来てくれていました。チェンマイでとても楽しむことができたというのにあと半分もある、ということにすごくワクワクしました。この日の夜ご飯はタイ式の焼肉であるムーガタというものをいただきました。この時に実はチェンマイに着いた初日に適当にレストランに入って食べたものがムーガタであったということを知りました。



●8/19

午前中はタマサート大学の教授にお会いし、大学の中と大学病院の中も少し見学させてもらいました。タマサート大学はキャンパス内にバスが走っているほどとても大きな大学で、日本医大と比べて少し羨ましい気持ちになりました。

午後はマンモグラフィーのレクチャーを受けて実際の症例を見ながらマンモグラフィーの理解を深めました。マンモグラフィーはこの会で3回目でしたが全くなれませんでした。とても難しかったです。

夜は現地の学生さんとリバーサイドにあるレストランで食事をし、その後にボードゲームやビリヤードができるお店で遊び、最後にアイスクリームを食べてプリクラを撮りました。プリクラは日本のものとは違い、加工が全くされなかったです。



●8/20

午前中はタマサート大学の学生さんに大学内を案内してもらいました。

タ

マサート大学はとにかく広い！ということを案内してもらっている最中

にも再認識しました。勉強スペースや図書館にも案内してもらいました。中でも驚いたのが勉強スペースの隣に仮眠を取ったり動画を視聴で

きるリラックススペースがあったことです。私ならこのようなスペースが勉強スペースの隣にあると絶対に勉強できないので、タイの学生達は

この中でも自分を律して勉強していて優秀だなと思いました
お昼ご飯は大学病院の屋台で食べ、そのあとはまた別の学生さんに大学病院の中を案内していただきました。実際の一般病棟だけではなく、手術室なども見せていただきました。手術を実際に見るのは初めてだったのでとても興味深かったです。一番印象に残ったのは出産の様

子を見た時で、産声が上がった瞬間にはなんとも言えない神秘的な気持ちになりました。

夕方にはショッピングモールに移動し、買い物や食事を楽しみました。



●8/21

午前中は腹部の超音波検査を見学しました。チェンマイの Red Cross Station でも行ったのですがその時よりも設備が充実していて画質も良く、機能も多かったためさ

らに学びが深まりました。

午後はタイの感染症に関する講義などを受けました。日本ではあまり聞かない東南アジアに多いデング熱や melioidosis などについても学ぶことができました。日本では中々聞けない講義だったのでとても有意義な時間を過ごすことができました。

●8/22

午前 Chachoengsao provincial medical center を訪問し、施設を見学しました。学生が使って勉強するシミュレーション室の他に実際の病棟、ICU、手術室なども見学することができました。ICU は日本の形態とそれほど大きな差はなかったように思えました。

午後の予定はなかったので帰りに近くの駅で下ろしてもらい、電車に乗ってバンコクの中心地へ行きました。バンコクの駅前にあるとても大きく有名なモールで買い物をしました。チェンマイと比べるとバンコクの中心地には日本語がとても多く、日本語で話している声も度々聞こえました。物価も非常に高くチェンマイの 3〜4 倍ほどしました。

お土産をチェンマイで買ってあげばよかったと嘆きました。

宿に戻る前にタイ式のマッサージを受けました。数回受けて合計 3 時間ほどマッサージされていたのですが、かなり痛く一睡もできなかったです。

●8/23

この日はタイの伝統的な医療について教えていただきました。午前中に

は伝統的な医療で用いるヤードムという嗅ぎ薬とハーブボールを作りました。机に薬草が並べられていて用途に合わせて自分で調合しました。

僕は良く眠れるようになる嗅ぎ薬を作ったのですが、匂いがとても独特で嗅ぐと目が覚めてしまいました。

午後には午前中に作ったヤードムとハーブボールを用いて実際に治療の体験をしました。ハーブボールを蒸し、それを布で包み患部に優しく押し当てるというものでした。やられている途中は実感はなかったのですが、終わって立ってみると少し体が軽くなったような気がしました。終わりにはハーブサウナの体験もしました。ハーブサウナでは 10〜15 分間薬草の香りがするサウナに入り、温かいハーブティーを飲みながら 5 分休憩するというものを

3 回繰り返すものでした。薬草の香りがするととても心地よかった



です。

●8/24

この日は1日休みだったので午前中は水上マーケットに連れて行ってもらいました。川の兩岸にひしめき合うようにお店が乱立していてすごい光景でした。お土産屋さんでは値引き交渉をし、粘りに粘って成功したので嬉しかったです。ランチを食べた後は移動をしてゾウに乗りました。タイといえばゾウなので乗れてよかったです。



●8/25

タイ派遣最終日。最終日ということでアユタヤを楽しむつもりだったのですが、自分は前夜から発熱と腹痛に苦しめられていくことができませんでした。圧巻の世界遺産だということを聞いていたので、行けなくてとても残念でした。またタイに来た時に行こうと思います。

みんながアユタヤから帰ってきたら、そろそろお別れの時間。1週間というのはあっという間でしたが、たくさんの思い出を作ることができました。別れ際にタイの学生がメッセージカードと似顔絵をくれました。とても感動して大切に保管しています。



●8/26

早朝の5時、2週間ぶりに羽田空港に戻ってきました。2週間とは思えないほどの思い出を振り返りながら家に帰りました。

振り返ってみて

2週間のアジ研。終わって見れば一瞬でした。病院の待合室に患者さんが横たわったベットが放置されていたり、病院内を鳩が歩き回っていたり。毎日毎日日本とは違う部分を見つけて驚かされる日々。また、まだ1年生で本格的な医学の勉強をする機械がほとんどない中、超音波検査をやら

せてもらったり、マンモグラフィー検査の画像診断をしたり、手術室を見学したりとさまざまなことを経験させてもらいました。とても刺激的でとても良い経験になりました。

医者になる上で僕が一番大切だと思っていることは、患者さんの気持ちに寄り添ってあげることだと思います。そのためには患者さんと深くコミュニケーションを取る必要があると思います。

言

葉では簡単に言えますが、実際は本当に難しいものだと思います。普段の日常生活でのコミュニケーションに苦労しているようではまだまだ足りないと思います。なぜなら人間誰しもが患者さんになりうるので、実に多種多様な患者さんがいるということだからです。より多くの患者さんに

寄り添ってあげるためには、より多くの現場を経験し生かしていく必要があると思います。まだ言

語化できていない部分もありますが、2週間の間に莫大な量を感じさせてもらいました。この感じたことを忘れずに、ゆっくり、高学年になっての病院実習などでうまく言語化して残していけたら

なと思います。

最後に、今日 9/25 の放課後に海外留学生報告会にアジ研の発表者として参加してきました。そこには、単身でタイとネパールの狭間に飛んで現地の子供と触れ合ったり、日本で研究していたもの

を元にしてアフリカのモザンビークで学会発表をしてきた先輩方がいました。僕はその志の高い先

輩方をみて、深く感銘を受けてアジ研でタイに行った経験を次に繋げたいと強く思いました。留学に限らず、この経験をもとに自分の興味のある医学の科目を突き詰めたり、発展途上国の子供達を支援する活動に関わったり、はたまた言語の壁を痛感して語学に勤しんだり、次に繋げたいと思います。

ありがとうございました。